

2024 年 2 月 16 日

The Emerging Markets Weekly

春節期間で動意薄も米金利の動きに相場が上下

新興国市場:先週末 9 日のアジア時間は春節(旧正月)を目前に控え、目新しい材料もなく動意に欠く展開。MYR が小幅に上昇する一方、THB は軟調となった。欧州時間は米金利が上昇するも、米国時間に発表された米 CPI 年次改定を受けて米金利は低下。しかし、その後米金利は反発し新興国通貨はまちまちな動きとなった。原油価格の上昇に連れ BRL や MXN は値を伸ばした。他方、ZAR は下押しされた。週初 12 日、アジア時間は春節と日本休場で薄商いとなり小動き。THB は堅調も PHP は下落。欧米時間も翌日に米 1 月消費者物価指数(CPI)の発表を控え、様子見ムードの中で方向感に欠ける動き。ZAR が上昇した。13 日、アジア時間は動意に欠く展開が継続。THB は良好なタイ経済指標も支援材料となり底堅く推移。欧米時間、米 1 月 CPI が市場予想を上振れ、利下げ期待が後退。米金利とドルは急伸、新興国通貨は総じて下落。ZAR は前日比▲1.2%値を下げた。14 日のアジア時間の新興国通貨は前日の米 1 月 CPI の結果が重しとなり概ね軟調。THB が前日比▲1.2%下落した。欧米時間、米金利が小幅に低下したことが新興国通貨の支援材料に。MXN は原油価格の上昇にも支えられ、ZAR も値を伸ばした。15 日、アジア時間の新興国通貨は大半が小幅な値動きとなった。TWD や IDR が値を下げた。IDR は大統領選を受けて一時上昇するも、押し戻された。他方、SGD は小幅に上昇、PHP もフィリピン中央銀行(BSP)の決定が支援材料となった。欧米時間、米 1 月小売売上高が市場予想を大幅に下振れ、米金利が低下しドルが反落、新興国通貨は買い優勢となった。ZAR や MXN が値を伸ばした。

アジア:中国が春節に入った影響でアジア通貨は総じて動意を欠いた。12 日発表のインド 1 月消費者物価指数(CPI)は前年比+5.10%と前月から鈍化するも、市場予想を上回った。食料品価格や燃料価格が全体をけん引した。タイのセター首相は 13 日、バンコクで入院生活を続けているタクシン元首相が近く仮釈放されることを明らかにした。2023 年 8 月に帰国したタクシン氏は汚職などの罪で禁錮 10 年の実刑判決を受けていたが、国王の恩赦で 1 年に減刑された。同氏は一度も刑務所に入らずに仮釈放されこととなり、野党の反発が強まるとみられる。14 日に投開票が実施されたインドネシア大統領選で、プラボウォ国防相が勝利宣言をした。同氏はジョコ氏が目指した財政健全化などの継続を目指すとしている。この結果は市場に好感され、一時 IDR は上昇を見せるもその後値を戻した。BSP は 15 日に政策金利を 6.50%に据え置くことを決定した。据え置きは 3 会合連続。声明文ではインフレリスクは後退しているものの、依然上方向に傾いていると強調した。

中東欧・アフリカ:14 日発表のロシア 1 月消費者物価指数(CPI)は前年比+7.44%と前月から加速し、市場予想を上振れる結果となった。同日発表の南アフリカ 12 月小売売上高は前年比+2.7%と前月のマイナスの伸び率からプラスに転じ、市場予想も大幅に上回った。

金融市場部
マーケット・エコノミスト

堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(中国)

2 月公表の経済指標の読み方～状況は変わらず、市場の注目は全人代へ

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大きな景況感の改善は確認されず

1 月 S&P グローバル PMI の結果は 52.5 と 12 月の 52.6 から大きな変化はなかった(図表 1)。内訳を見ても、製造業・非製造業ともに同様の動きが確認出来る。PMI は業況改善の目安である 50 を上回るも、消費者心理の動向が過去の水準と比較して大きく落ち込んでいる状況を加味すれば、堅調というよりも底打ちの兆しが見えてきたと判断することが適切であるように思われる(図表 2)。なお、現在春節中につき、小売売上高や固定資産投資は 3 月にまとめて公表予定となっている。

また、足許の中国経済への評価は株式市場にも現れた。2 月に入り、上海総合株価指数は一時約 5 年ぶりの安値を記録(図表 3)。かかる中、中国政府は株式市場の安定化を意図した支援策を実施。政府系ファンドによる株式(ETF)の購入買い支え、上場企業に対する自社株買いの促進などを軸とした内容で一時底打ちの兆しを見せた。片や、安定策の一環として実施された空売りの抑制を規制の厳格化として嫌気した投資家も少なくなかった様で、この他にも一連の海外勢の売りは不動産部門をはじめ中国経済の先行き不透明感が反映された印象を受ける。四半期ごとの海外からの対中証券投資の動向を見てもその勢いが減速しているのは明確で(図表 4)、株式市場の持ち直しにはやはり景気の押し上げが必要だろう。

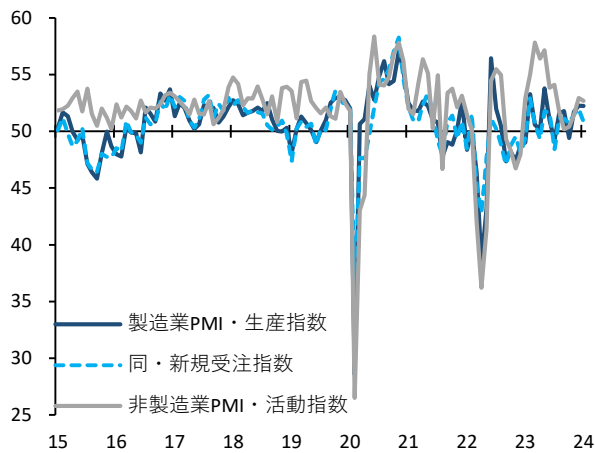
物価の停滞感も変わらず

物価動向に関し、1 月消費者物価指数(CPI)は前年比▲0.8%と 4 か月連続でマイナス圏を推移しており、市場予想の同▲0.3%および 12 月の同▲0.5%を下回った(図表 5)。一方、食品とエネルギー価格を除いたコア CPI は同+0.4%と 12 月の同+0.6%から伸びが鈍化。マイナス推移の要因は食料品価格の下落が主でありながら、前年の同時期はコロナ規制が緩和されて間もなかったことを勘案すれば、コア部分の弱さも無視できない状況にある。なお、川上部門の 1 月生産者物価(PPI)は、同▲2.5%と 12 月の同▲2.7%を上回り下落幅は段階的に縮小も、16 か月連続でマイナス圏を推移。プラス圏への回帰にも相応の時間を要する状況にある。

2 月の CNY 相場について

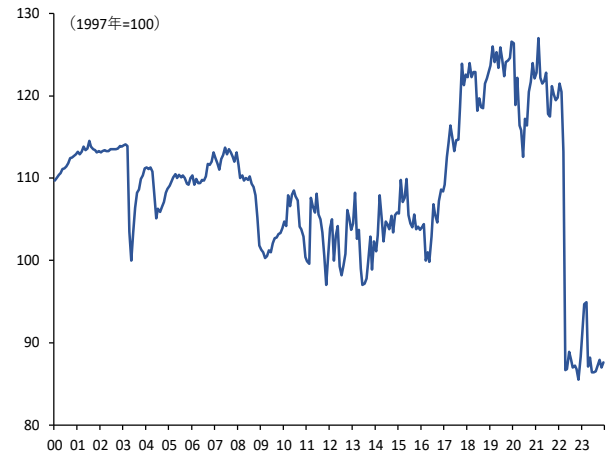
2 月 FOMC では早期の利下げ期待が後退、2 月公表の米国経済指標は雇用統計をはじめ堅調なものも多く米金利の再騰を促した。この結果、対米金利差が再拡大する格好となっており、CNY は対ドルでじり安となっている(図表 6)。春節明けに中国人民銀行(PBoC)は 1 年物中期貸出ファシリティレートをはじめ、主要金利を公表するが、足許の景気動向に鑑みれば金融緩和を継続すると考えて差し支えないだろう。先述の通り、景気動向や当局政策指針に対して、追加の対応を待つ様な海外投資家の動きも見られており、目下の相場イベントは 3 月前半の全国人民代表大会(全人代)になりそうだ。それまでの間、CNY 側の買い要素に欠く中で、上値の重い推移が続きそうだ。

図表 1: PMI の動向



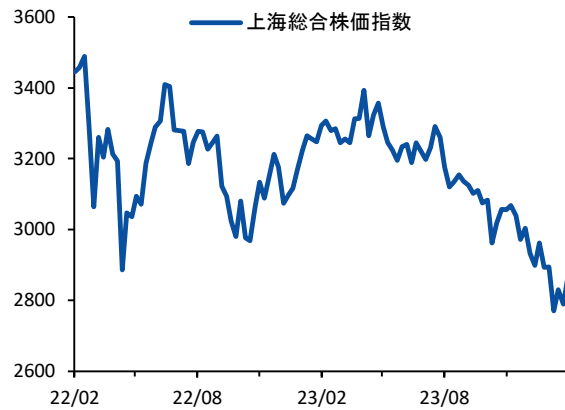
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 2: 消費者信頼感指数の推移



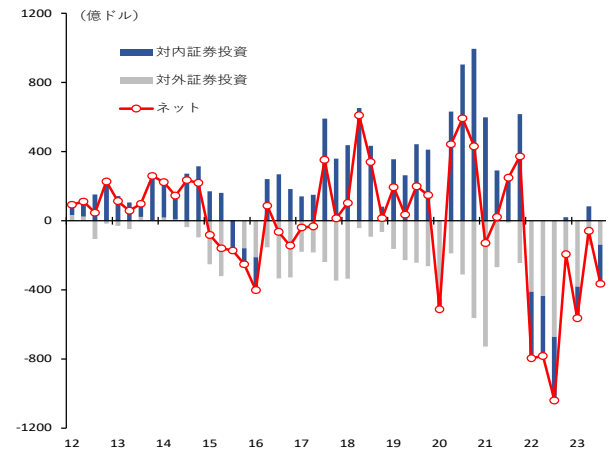
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: 上海総合株価指数の推移



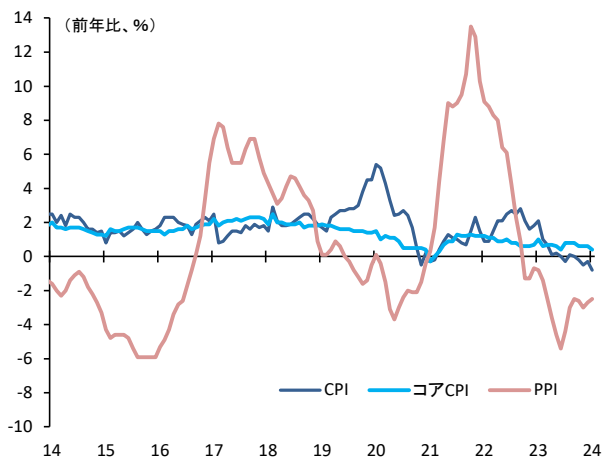
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 中国の対外・対中証券投資の動向



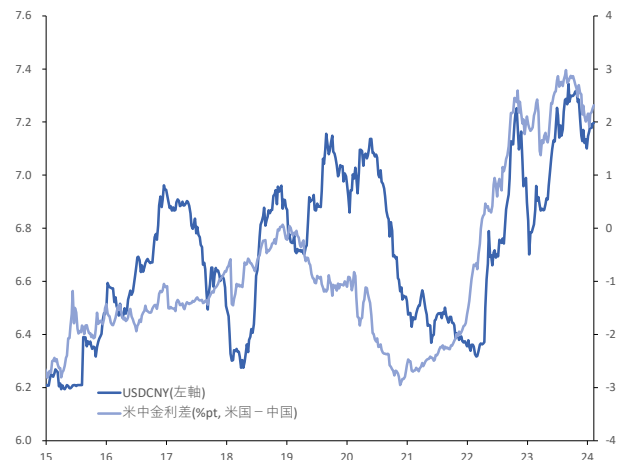
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 5: CPI と PPI の推移(前年比%)



出所: ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 6: 対米金利差と CNY 相場



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(インドネシア)

大統領選挙レビュー～第一回投票で終結へ～

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

14 日、インドネシアでは大統領選挙が行われ、即日開票がスタートしている。本欄では、得票率に関する速報について情報をまとめるとともに、金融市場に与える影響について簡単に論じたい。なお、本欄で使用する得票率速報に関しては、2 月 14 日の 19 時 30 分(現地時間 17 時 30 分)前後の情報に基づくものであり、その後アップデートがある点はあらかじめ強調しておきたい。Centre for Strategic and International Studies(CSIS)と KOMPAS に関してはホームページのリアルタイム速報を、Lembaga Survei Indonesia(LSI)に関してはストリーミング配信から数字を確認している。また、各候補者のプロフィールなどは、プレビュー(*)で言及しているので、必要に応じて確認いただきたい。

早速得票率集計を確認していくと、プラボウォ氏が 60%近くを獲得したことが注目を集めた(図表 1)。プレビューでも指摘した通り、プラボウォ氏が優勢であることは初めからわかっていたが、プレビュー発刊までの調査においては、同氏の支持率が過半数に達することはなかった。もっとも、プレビュー発刊後に行われた調査においては、主要調査機関のサーベイでは初めて同氏が過半数の支持率を獲得している(図表 2)。投票日直前に支持率を高め、その流れを当日まで継続したと評価できよう。全数調査ではないため、得票率集計には若干の誤差が生まれるだろうが、それを割り引いたとしても、プラボウォ氏による過半数票獲得は固いと考えられる。実際、プラボウォ氏も、14 日夜には、集会において支持者に向けて勝利宣言をしている。過去 2 回の大統領選挙では敗北していただけに、「三度目の正直」を果たした格好だ。

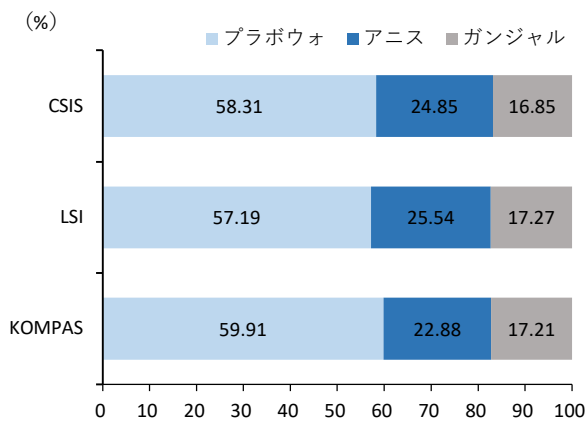
過半数を獲得する候補者が現れなかった場合、上位 2 候補者による決選投票が 6 月に行われる運びとなっていた。第一回投票の正式な結果は遅くとも 3 月 20 日までに公表される見込みではあるものの、足許の各種調査に基づけば、投票が第二回にもつれ込む可能性は相当低いとみてよいだろう。この点、第一回投票の注目点は、「どの候補者が優勢か」ではなく、「プラボウォ氏が優勢なことは所与として、過半数票を獲得できるか」であったため、50%を有意に上回る得票率は、不透明感を発生させないといった点で市場に好感されやすい結果だろう。

14 日、インドネシアは休日であり、IDR 相場の値動きは確認できないものの、シンガポールで取引されるインドネシア株式(FTSE Index)の先物価格は、開票速報のニュースが流れると上昇で反応していた。また同日、IDR の為替先渡取引価格(NDF、1 か月物)は、不透明感を前に対ドルで 15728 まで弱含む場面もあったものの、開票速報が流れると強含み、15600 を割り込んで上昇している。前日比を確認しても、+0.6%程度の上昇となった。本格的な受け止めは、15 日以降のインドネシア金融市場を確認する必要があるだろうが、少なくとも開票直後では好感する向きが多いと考えられる。過去の本欄でも、第二回投票に結果が持ち越しとなれば、不透明感からインドネシアの各種資産にとって向かい風となると指摘していたが、そのようなリスクは解消されたとみてよい。もっとも、結果が持ち越しになるうがなるまいが、いずれにせよプラボウォ氏の当選は確実視されていたことに鑑みれば、今回の結果が資産価格を大きく押し上げることもないと考えている。今後に関しては、大統領選挙の話題がある程度旬を過ぎ去れば、政治に関する市場の注目点は、閣僚人事や 2025 年度予

算案の内容に移っていきましょう。

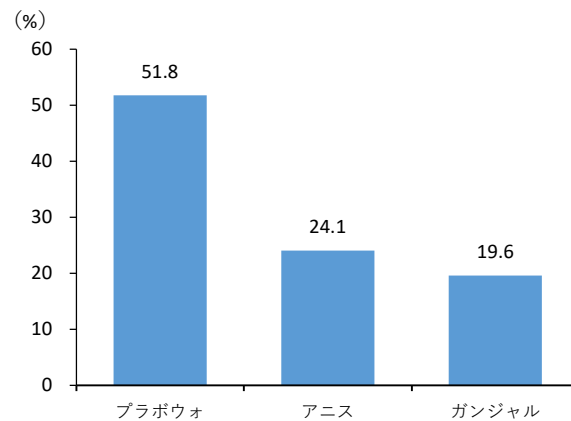
*詳細は、1 月 23 日発行の通貨ニュース、『インドネシア：大統領選挙プレビュー～三度目の正直なるか～』をご覧ください。

図表 1: 開票直後における得票率集計



出所: 各報道機関、みずほ銀行

図表 2: 各候補者の支持率(1 月 28 日～2 月 4 日の調査)



出所: Indikator Politik、みずほ銀行

市場概観(フィリピン)

2 月金融政策会合～予想以上のデスインフ レを好感～

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

フィリピン中央銀行(BSP)は、15 日に金融政策会合の結果を公表し、政策金利の翌日物リバースレポレートに従来の 6.50%に据え置いた(図表 1)。政策金利の据え置きは 3 会合連続。また、上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートも現状維持となっており、それぞれ 7.00%と 6.00%とした。ブルームバーグの事前予想では、調査対象者全員が現状維持を見込んでいた。1 月 26 日、レモロナ BSP 総裁は「上半期に利下げを行う可能性は低い」とする一方で、年内の利下げ開始を示唆していた。こうした流れを受け、今回会合の注目点は、据え置き期間に関する示唆や、利下げへの距離感を確認することだった。

声明文は引き続きインフレに対する言及が目立った。物価動向について、直近公表の 1 月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.8%と、市場予想の同+3.1%および 12 月の同+3.9%を下回った(図表 2)。また、食品とエネルギーを除くコア CPI も同+3.8%となり、BSP の目標レンジである+2.0～+4.0%のレンジに 18 か月ぶりに回帰した。総合、コアいずれも目標圏内に収まるのは、実に 22 か月ぶりである。インフレ鈍化の太宗は食品・飲料で説明でき、寄与度ベースで確認すると、同+2.09%から同+1.34%に大きく減速している。もっとも、コアで確認できる通り、その他の項目に関してもデスインフレが順調に進んでいる。かかる中、先行きの予想インフレ率について BSP は、2024 年は前年比+3.9%、2025 年は同+3.5%としており、それぞれ前回会合時点から▲0.3%ポイント、+0.1%ポイント修正している。やや下方修正が目立つ内容だろう。声明文においても、インフレ期待に関し「広く」固定されているとしていた箇所が、「よりしっかりと」固定されているとの記載に変更されており、やや自信度を高めている様子がうかがえる。ただし、インフレリスクは弱まってはいるものの、依然上方向に傾いていると強調しており、警戒姿勢を解除したわけではない。

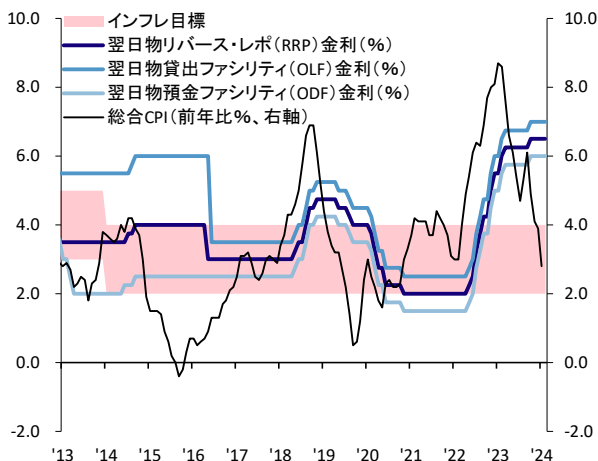
国内経済の動向について、過去の金融引き締めに伴い、短期的には成長率が穏やかになる可能性があるとは指摘しており、やや景気認識を下方修正している。最新の 10～12 月期の実質 GDP 成長率は、前年比+5.6%と 7～9 月期の同+6.0%からは伸びが減速したものの、市場予想の同+5.2%を大きく上回った(図表 3)。なお、季節調整済みの数字を前期比で確認すると、+2.1%と 7～9 月期の同+3.8%からは減速したが、一定の伸びを確保した。内訳を確認すると、個人消費を中心に内需が底堅かった一方、輸出はやや軟調な結果となり、純輸出は 3 四半期ぶりにマイナス寄与となった。PHP 相場を考察するうえでも、フィリピンの強みであるビジネスプロセスアウトソーシング(BPO、海外企業からの業務委託)での収入は非常に重要な要素であるが、先行する海外労働者(OFW)の送金実績にはやや頭打ち感も感じられる(図表 4)。軟調な外需が継続するかに加え、送金元の 4 割程度を占める米国の労働市場の先行きにも注意を払うべきだろう。

先行きの金融政策に関しては、前回会合で「インフレ期待を安定させるために、政策金利を十分抑制的な水準に設定する必要がある」とされていた部分が、「インフレ状況が改善する中、短期的には政策金利を変更しないことが適切である」に変更されており、やはりタカ派姿勢が後退している。「必要に応じて金融政策を調整する用意がある」旨の記載に変化はなかったものの、「短期的には据え置きが適切」との文言

は、その後の利下げ開始を示唆していると解釈できるだろう。今後、インフレのリスクバランスが均衡に向かえば、明確な利下げ示唆へ動ける公算が大きい。こうした声明文の変化や、BSP 高官の発言などを考慮に入れると、やはり 8 月会合での利下げ開始が本命だろう。

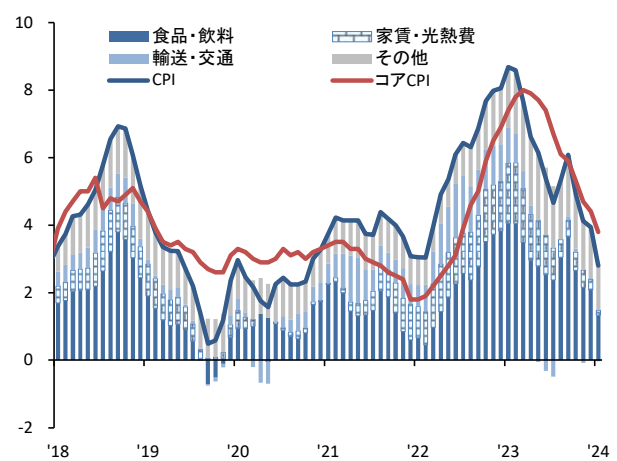
2 月に入って以降の PHP 相場は、米金利上昇が重しとなったものの、中国当局による株価下支え策に関する思惑がアジア通貨全般を押し上げたことなどを受け、底堅い推移となっている(図表 5)。3 月末にかけての PHP 相場は、上値の重い推移を続けると予測する。上述の通り、域内のデフインフレは予想以上であり、BSP はタカ派姿勢を明確に後退させている。先行きの利下げ期待は、域内金利低下を通じ PHP の重しとなろう。中国経済の軟調さなどに端を発する輸出の低迷、依然底堅く推移する資源価格を背景に、貿易赤字には縮小の兆しが見えてこない。以上、物価情勢、需給動向などを背景に PHP を弱気で見めるが、BSP が想定以上にタカ派な姿勢を継続させるなどの場合、PHP が強含む可能性にも注意を払いたい。

図表 1: 政策金利水準とインフレ目標



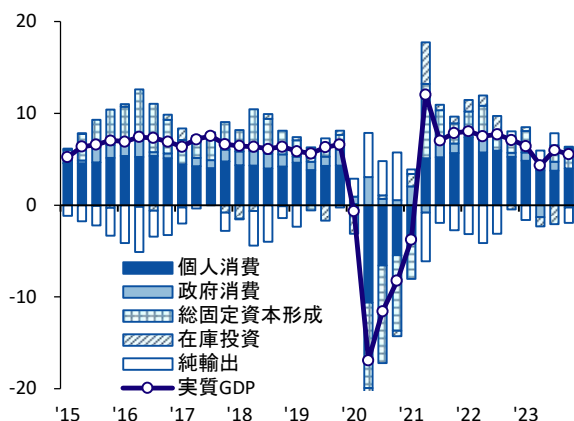
出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)



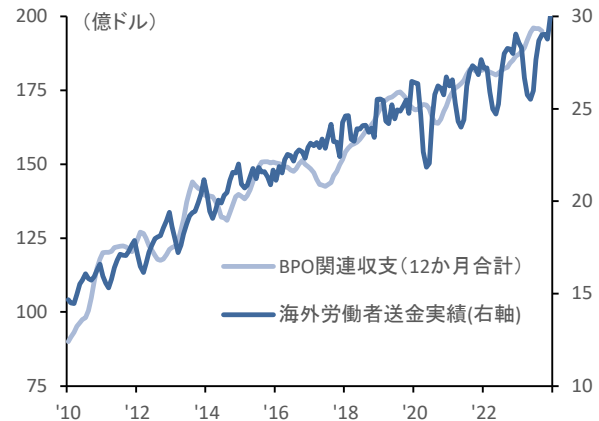
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 実質 GDP 成長率(前年比、%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: フィリピンの BPO 関連収支と海外労働者送金実績



出所: Bloomberg、みずほ銀行 注: 3 か月移動平均

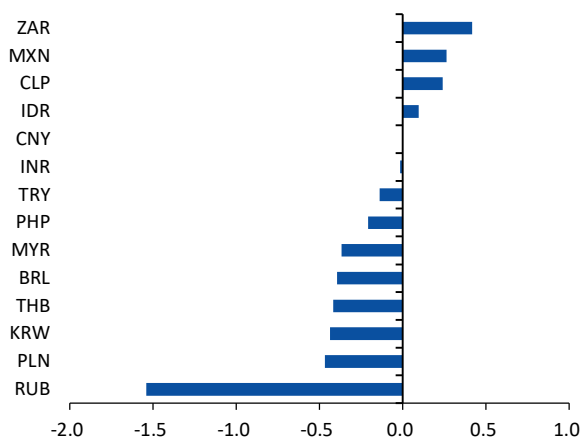
図表 5: PHP 相場動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

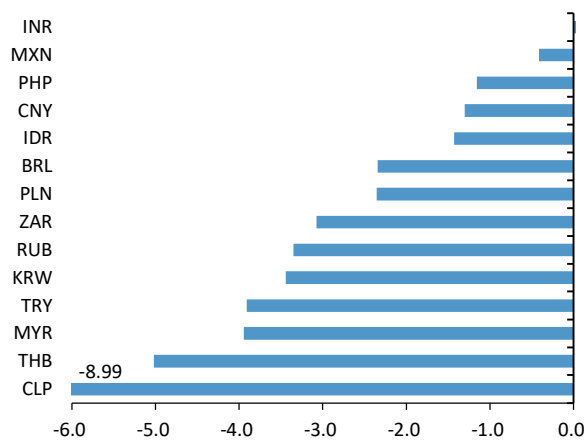
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



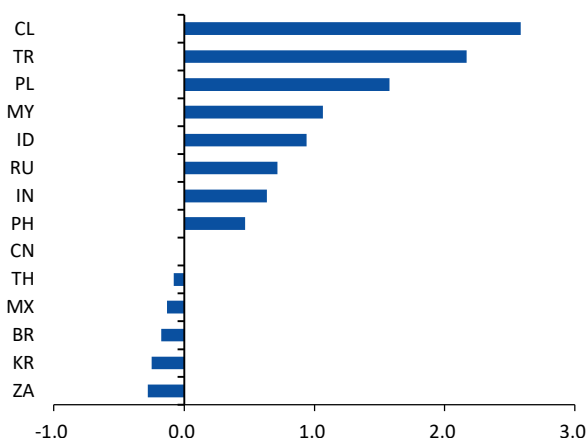
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



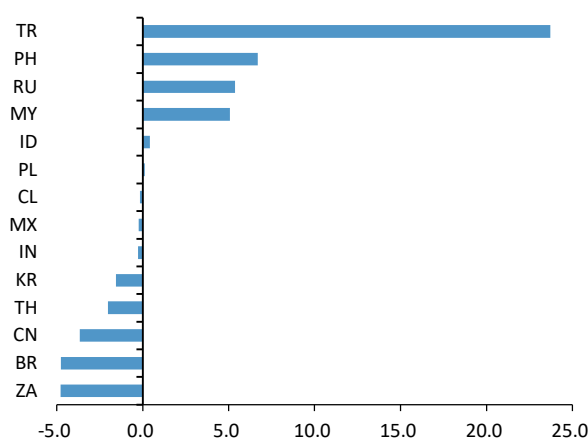
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



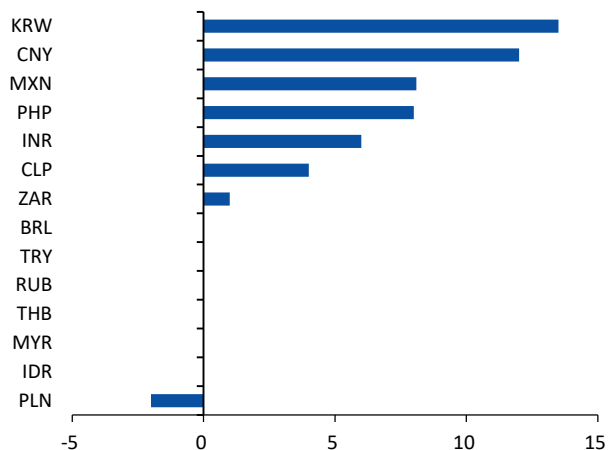
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

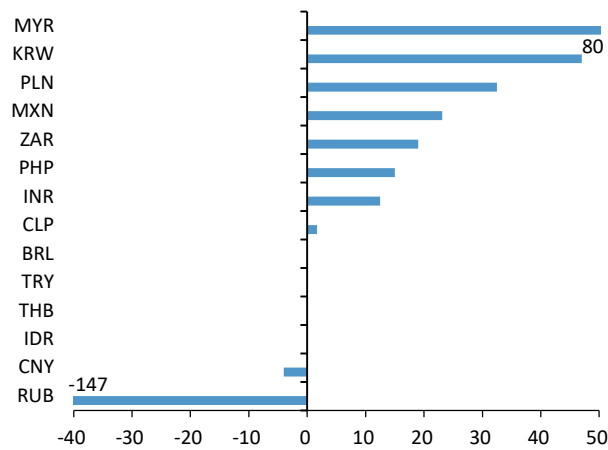
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

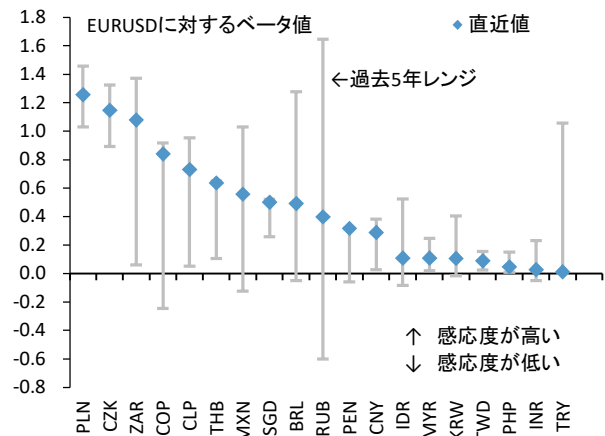
チャート集

主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



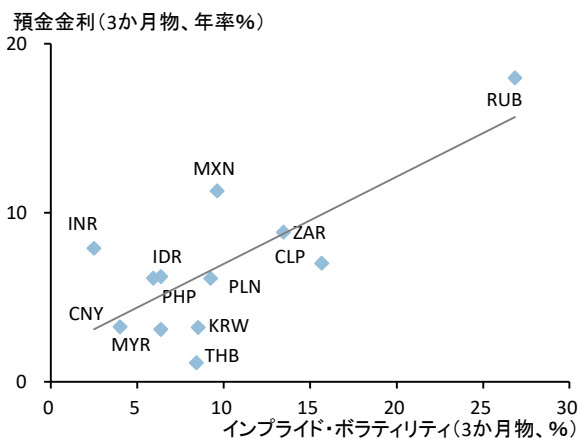
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



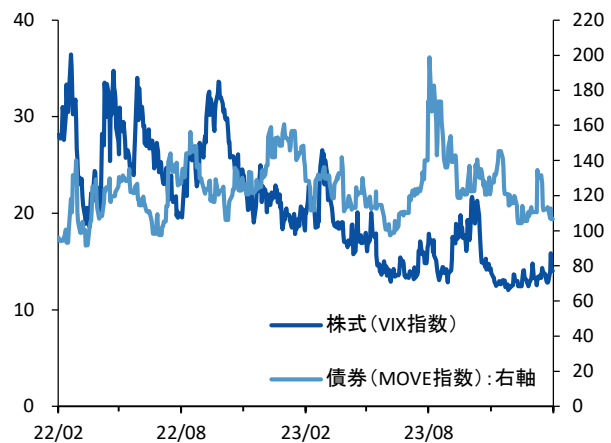
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



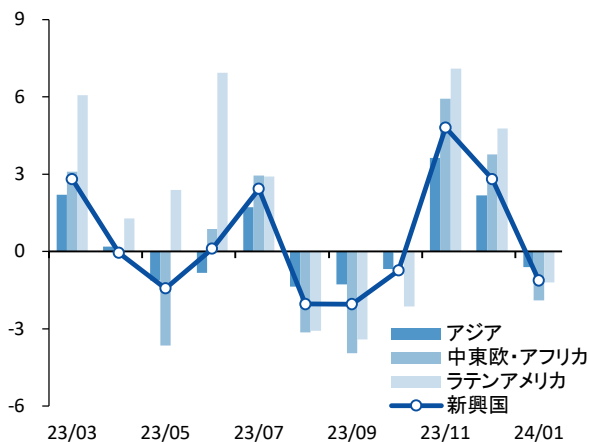
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



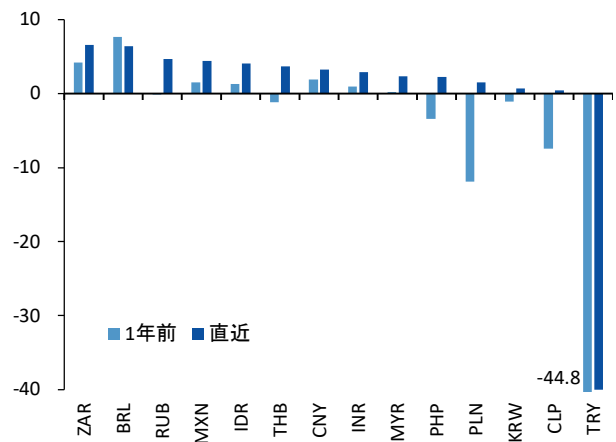
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
2月12日 (月)	インド	鉱工業生産(前年比)	2.4%	3.8%	2.4%	--
12日 (月)	インド	CPI(前年比)	5.0%	5.1%	5.7%	--
13-15日	インド	輸入(前年比)	--	3.0%	-4.8%	--
13-15日	インド	輸出(前年比)	--	3.1%	1.0%	--
14日 (水)	インド	卸売物価(前年比)	0.5%	0.3%	0.7%	--
15日 (木)	シンガポール	GDP(前年比)	--	2.2%	2.8%	--
15日 (木)	インドネシア	貿易収支	\$3022m	\$2015m	\$3300m	\$3307m
15日 (木)	インドネシア	輸出(前年比)	-2.5%	-8.1%	-5.8%	-5.9%
15日 (木)	インドネシア	輸入(前年比)	1.4%	0.4%	-3.8%	--
15日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	6.50%	6.50%	6.50%	--
15日 (木)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	1.3%	3.8%	2.8%	--
16日 (金)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	4.3%	--	-1.5%	--
16日 (金)	マレーシア	GDP(前年比)	3.4%	--	3.4%	--
19日 (月)	タイ	GDP(前年比)	--	--	1.5%	--
19日 (月)	フィリピン	総合国際収支	--	--	\$642m	--
20日 (火)	韓国	消費者信頼感	--	--	101.6	--
20日 (火)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	-10.0%	--
21日 (水)	韓国	PPI 前年比	--	--	1.2%	--
21日 (水)	韓国	景況判断(製造業)	--	--	71	--
21日 (水)	インドネシア	BI-Rate	--	--	6.00%	--
22日 (木)	韓国	BOK Base Rate	--	--	3.50%	--
23日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	--	--	1.5%	--
23日 (金)	シンガポール	CPI(前年比)	--	--	3.7%	--
23-29日	タイ	貿易収支(通関ベース)	--	--	\$973m	--
中東欧・アフリカ						
2月12日 (月)	ロシア	貿易収支	--	10.2b	8.7b	--
13日 (火)	トルコ	経常収支	--	-2.09b	-2.72b	--
14日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	2.7%	-0.9%	--
15日 (木)	ロシア	CPI(前年比)	--	7.4%	7.4%	--
16日 (金)	ロシア	主要金利	--	--	16.0%	--
21日 (水)	南ア	CPI(前年比)	--	--	5.1%	--
22日 (木)	ロシア	PPI 前年比	--	--	19.2%	--
22日 (木)	トルコ	1週間レポレート	--	--	45.00%	--
23日 (金)	トルコ	製造業景況感指数(季調前)	--	--	100.9	--
23日 (金)	トルコ	設備稼働率	--	--	76.2%	--
23日 (金)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	--	3.5%	--
ラテンアメリカ						
2月13日 (火)	メキシコ	ANTAD既存店売上高(前年比)	--	3.5%	5.2%	--
24-27日	ブラジル	税収	--	--	231225m	--
21日 (水)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	2.7%	--
22日 (木)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	--	--	2.3%	--
22日 (木)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	--	--	2.4%	--

注: 2024 年 2 月 16 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2024年 1月(実績)	SPOT	2024年 3月	6月	9月	12月	2025年 3月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	7.1021 ~ 7.1976	7.1936	7.15	7.15	7.10	7.05	7.00
香港ドル (HKD)	7.8048 ~ 7.8285	7.8190	7.80	7.80	7.79	7.78	7.77
インドルピー (INR)	82.770 ~ 83.351	83.043	83.8	84.5	83.5	82.0	80.8
インドネシアルピア (IDR)	15430 ~ 15843	15623	15500	15710	15520	15350	15200
韓国ウォン (KRW)	1290.40 ~ 1346.80	1333.95	1300	1290	1280	1260	1250
マレーシアリングギ (MYR)	4.5892 ~ 4.7400	4.7825	4.67	4.64	4.68	4.61	4.58
フィリピンペソ (PHP)	55.445 ~ 56.560	56.025	55.8	56.2	56.2	55.2	54.8
シンガポールドル (SGD)	1.3193 ~ 1.3469	1.3457	1.34	1.38	1.35	1.33	1.32
台湾ドル (TWD)	30.663 ~ 31.623	31.425	30.5	30.0	29.6	29.2	29.0
タイバーツ (THB)	34.11 ~ 35.88	36.05	35.5	36.1	35.2	34.2	34.0
ベトナムドン (VND)	24260 ~ 24618	24463	24300	24500	24100	24000	23900
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	87.4000 ~ 92.0807	92.5751	90.0	92.0	94.0	96.0	98.0
南アフリカランド (ZAR)	18.2639 ~ 19.2180	18.9551	19.0	19.2	19.4	19.6	19.8
トルコリラ (TRY)	29.6646 ~ 30.7249	30.7630	31.0	32.0	31.0	30.0	29.0
ラテンアメリカ							
ブラジルレアル (BRL)	4.8314 ~ 5.0017	4.9741	5.00	5.05	5.05	5.02	5.00
メキシコペソ (MXN)	16.7852 ~ 17.3860	17.0546	17.5	18.0	18.2	18.4	18.5
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	19.830 ~ 20.733	20.841	20.28	20.14	20.14	20.57	20.86
香港ドル (HKD)	18.032 ~ 19.026	19.174	18.59	18.46	18.36	18.64	18.79
インドルピー (INR)	1.695 ~ 1.790	1.808	1.73	1.70	1.71	1.77	1.81
インドネシアルピア (100IDR)	0.913 ~ 0.952	0.960	0.935	0.917	0.921	0.945	0.961
韓国ウォン (100KRW)	10.820 ~ 11.151	11.240	11.15	11.16	11.17	11.51	11.68
マレーシアリングギ (MYR)	30.593 ~ 31.527	31.369	31.05	31.03	30.56	31.45	31.88
フィリピンペソ (PHP)	2.541 ~ 2.660	2.681	2.60	2.56	2.54	2.63	2.66
シンガポールドル (SGD)	106.65 ~ 110.79	111.42	108.37	104.35	105.69	109.19	110.44
台湾ドル (TWD)	4.576 ~ 4.750	4.775	4.75	4.80	4.83	4.97	5.03
タイバーツ (THB)	4.096 ~ 4.196	4.158	4.08	3.99	4.06	4.24	4.29
ベトナムドン (10000VND)	0.5807 ~ 0.6057	0.6132	0.60	0.59	0.59	0.60	0.61
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.552 ~ 1.689	1.623	1.61	1.57	1.52	1.51	1.49
南アフリカランド (ZAR)	7.588 ~ 7.918	7.911	7.63	7.50	7.37	7.40	7.37
トルコリラ (TRY)	4.748 ~ 4.929	4.860	4.68	4.50	4.61	4.83	5.03
ラテンアメリカ							
ブラジルレアル (BRL)	28.829 ~ 30.192	30.144	29.00	28.51	28.32	28.88	29.20
メキシコペソ (MXN)	8.297 ~ 8.684	8.796	8.29	8.00	7.86	7.88	7.89

注: 1. 実績の欄は 2024 年 1 月 31 日まで。SPOT は 2 月 16 日の 7 時 00 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。